



2018年2月15日

三井化学アグロ株式会社

三井化学アグロと Bayer が新規殺菌剤のグローバルライセンス契約を締結

～新規作用性殺菌剤で世界の食糧生産の向上に貢献～

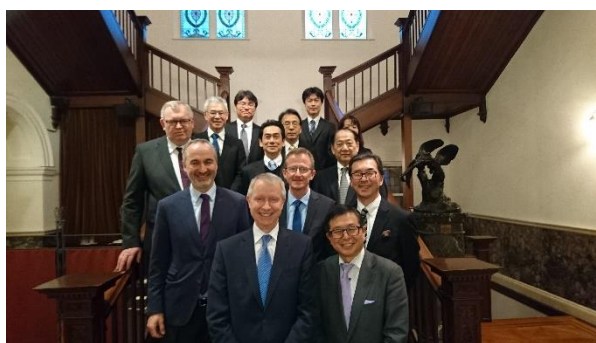
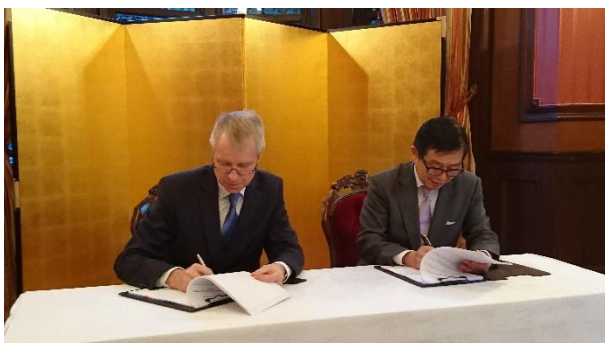
三井化学アグロ株式会社（東京都中央区、代表取締役社長：谷 和功、以下三井化学アグロ）と Bayer AG Crop Science Division（ドイツ・モンハイム、クロープサイエンス部門代表：リアム・コンドン、以下 Bayer）は、三井化学アグロが発明した新規殺菌剤キノフメリンのグローバル開発・マーケティングに関するライセンス契約を締結しました。三井化学アグロは日本・アジアを、Bayer は欧米を中心とした地域においてそれぞれ独占的に、また、南米等は両社が独自に製剤を開発・マーケティングできる実施権を有します。両社は今後、製剤開発を推進し世界中の生産者へ新たな病害防除ソリューションを提供して参ります。

キノフメリンは、三井化学アグロの持つ分子デザイン・有機合成技術から生まれた全く新しい作用性を持つ殺菌剤であり、既存剤の耐性菌にも効果的で、農業生産における新たな病害防除ソリューションとなります。また、新規作用性を持つキノフメリンを散布体系に加えることで、病原菌の耐性管理をより強固にすることができます。

適用対象	果樹類、果菜類、ナタネ、水稻などの病害防除
対象病害	農作物で問題となる多くの病害： 黒星病、灰色かび病、いもち病、炭疽病など

三井化学アグロは、Bayer とグローバルに提携することでキノフメリンの海外事業の展開を加速するとともに、世界の食糧生産の向上に貢献して参ります。

今後、三井化学アグロと Bayer は共同開発を推進し、2020 年の日本での登録申請を皮切りに、順次各国で登録申請していく予定です。



調印式の様子(左より、Bayer クロップストラテジー部門ヘッド クレーマー氏、当社 谷社長)

以 上

＜本件に関するお問い合わせ先＞

三井化学アグロ株式会社 総務部（TEL：03-5290-2701）